

### 3.3 全選手枠を推薦による選考の対象とする

これは極端な策である。現状推薦枠の存在が認められていることから、諮問委員会の推薦基準運用に対する加盟員からの信頼は担保されていると考えられるが、全ての枠を対象としたときに懸念が生じる蓋然性は高い。また、端的に言って問題を諮問委員に丸投げしているのと同じことであり、これを検討対象とするのは憚られる。

以上、3案をメリット/デメリットとともに示したが、あくまで骨子であるのでこれ以上のことは会議の場で深く検討したい。

## 4. 受理した陳情

以下に加盟員からの陳情を列挙する。体裁を除いて原文通りであり、受理した時刻順に掲載している。

### I 京都大学

#### 【陳情 i】

明石海峡公園二日間大会及び関東学連スプリントセレをセレクションレースとして指定するべきではない。

#### (理由)

明石海峡公園大会の行われる 9/18 には OBOG の結婚式が行われ、一部の部員は参加を予定しているため参加することができない。関東学連スプリントセレが行われる 9/23 は京大京女大会兼全日本ミドル及びその前日大会の一週間前である。例年公認大会として開催されている京大京女大会であるが今年は今全日本ミドルとの共催であり、全国からの注目度はとても高くなっている。そのためこの時期は全部員が準備に追われていると予測され、このような多忙な時期にセレクションが行われるのは大会運営に支障が出かねない。また調整などの面から不平等でもある。今大会は日本のオリエンテーリング界全体に関わることであり配慮を求める。

#### (幹事長メモ)

- ・冠婚葬祭の重要性は理解するが、結婚式とセレを天秤にかけて出欠を判断するのは個人の問題であり、学校単位の陳情として考慮することは難しい。どのみち京女は授業か？

**結局 18 日に結婚式というのは誤りであった。**

- ・全日本ミドルの運営業務は非常に公共性が高く、少なからず配慮が必要である。ただし大半の学生は夏季休暇中であるから土日に集中して準備を行う必要性は相対的に下がる。ただ「忙しい」だけではなく、具体的な問題点を把握したい。また、表面化していないだけでこのような運営関連業務は各校あるかもしれない。秘密を前提に幹事会の場で共有したい。

**大会役員としても運営に参加している京女生が授業期間であるため、土日以外に集中的に準備を行うのが困難とのことであった。また、京大京女以外にこのような業務があるとの報告は上がらなかった。**

### 【陳情 ii】

再セレの日程として8/22~8/27 にすべきではない

(理由)

京大夏合宿が春から入っている。そこでセレを行うことは京大にとって致命的な不利益となる。

(幹事長メモ)

- ・合宿は宿の都合などによる拘束度が高く、再セレの日程を取って被せるのは極力避けるべき。陳情はなかったが阪大神大奈良女は8/30-9/4での合宿を予定している。

### 【陳情 iii】

参加費の二重取りについて

(理由)

今回、運営者の過失により競技不成立となった。一般の大会であればそれで終わりでもよいが、今回はセレクション(以降セレとする)であるので、参加者はもう一度何かしらのセレに参加しなくてはならない。その場合にも参加費を払うことになると、何も落ち度のない参加者が追加の負担を強いられることになる。よって、競技不成立となったセレに参加していた加盟員については、再び行うセレについては参加費を免除するところを求める。

(幹事長メモ)

- ・再セレを実施するか否かの決断は学連によるものであり、その費用を学連会計から支出することが一概に不合理とは言えない。ただし学連のお金はそもそも加盟員が支払ったものであるからどちらにせよ同じとも言えるし、そうでないとしてもセレクションへの参加はこちらが強制しているものではないから負担は個人が負うべきとも言える。意見が分かれるところではないか。

幹事会の場において、この陳情は運営者である OB 諸氏による負担を要求しているのではないかという解釈に至った。しかし OB 諸氏からなる実行委員会は、あくまで主催者たる関西学連からの依頼を受けてセレクションの主管者として活動しており、その損失は最終的に関西学連会計の被るところとなる。すなわち、陳情者の真意は別としてセレ参加費を免除するならばそれによって生じる赤字は学連会計からの支出とするよりほかになく、それは総会に議題として改めてあげてもらうべきである。

## II 佐野 萌子 (京都女子大学 3)

### 【陳情】

今回のセレの結果も考慮して、エリートを決めてほしいです。

具体的には、9-10 で失格になった人、ならなかった人両方を含めて、私と 2 位以下には明らかにタイム差があったと思うのでそこを考慮してほしいです。

(理由)

私は今回のセレにピークを持ってこれるように準備と調整をしていました。

その結果出せたタイムと順位なので、今回の競技不成立で努力が全て無駄になるのは納得できません。

(幹事長メモ)

- ・議論の根幹に関わる陳情。タイム処理のみを考えれば全員再セレが間違いなく公平だが、再セレの日程

によっては参加できなくなる選手も出てくる可能性が高く、また、陳情にあるように、ピーキングを含め、セレに対する種々の準備を積んできた選手にとって不公平感が拭えないのは確か。仮に再セレを実施するのであれば、今回のセレで明らかな好成績を残した選手(タイムになんらの疑義もないことが前提)への配慮はしっかり検討したい。今回のセレ結果のみを選考対象とした特例推薦枠の設置など考えられる。

### III 京都女子大学

#### 【陳情】

以下の日程に再セレをしないように京都女子大学からの陳情としてお願いします。

9/9-10	名楯大会
9/16	2定
9/17	帰寮日(寮生が拘束される)
9/18	授業
9/23-24	京大京女大会前週準備
9/30-10/1	大会運営
10/9	授業

#### (理由)

9/17 以前

寮生の参加が難しい。実習がある学生もいる。

9/18 以降の平日

授業が始まっているため参加不可能である。

#### (幹事長メモ)

・あまりに条件が厳しく、再セレやむなしとなれば全てに配慮することは困難。なお、ICSのエントリー期限は9/29であるから、その時点までに代表選手は確定していなければならない。夏合宿を考慮すると、9月上旬の平日ぐらいしか候補日を設定できない？

### IV \*\*\* (\*\*\*)

#### 【陳情】

日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門関西地区代表選手選考会実施基準には第3条から第5条にて開催における主管、開催日程、開催場所についての決定について手段、日程などを定めることで厳格に定めている。これは、セレクションは性格上基本的に学連加盟員全員が参加できるようにしなければならないが、それは現実上不可能であるため、セレクションの開催における主管、開催日程、開催場所についてを相当期間前から告知しておくことで各個人がセレクション参加に対して日程調整を図る時間を十分に与え、学連内で調整し決定できるように妥協したものであると考えられる。それゆえセレの再試行をただ最も事務的に有効な方法であるからという理由でこの時期に総会で再試行大会

についての決定することは、すでに予定の調整が困難で決定されたセレの再試行大会に参加できない関西学連スプリントセレ兼パーク O ツアー関西に参加していた加盟員にとっては著しい不利益をこうむらせることとなるため認められるものではないと考える。たとえ日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門関西地区代表選手選考会実施基準第 3 条から第 5 条にそのような趣旨がないとしても、インカレスプリントに出場したいという理由で関西学連スプリントセレ兼パーク O ツアー関西に参加していた加盟員から、一方的に日程を決めることで間接的に再試行大会への参加権を奪うようなことは到底認められないと考えられる。よってセレクションの再試行には反対である。

上記意見より関西学連スプリントセレ兼パーク O ツアー関西の成績を参考にして決めるしかないとは私は考える。

関西学連スプリントセレ兼パーク O ツアー関西の成績を参考にして決める方法として二つの方法を提案します。一つは問題となったポストである 10 ポまでの成績で決定する考え、もう一つは 10-11 にかかった時間をひいた合計時間で決定する考えです。

何にしろ再試行については反対です。以上の意見について考慮をお願いします。

#### (幹事長メモ)

- ・スプリントセレ実施基準[参考資料 5]3-5 条に定めるところの内容は、セレクションへの加盟員の確実な参加とそのための十分な調整を意図したものであると推察でき、その点でこの主張に相違ない。当然その精神は尊重されて然るべきであるが、この幹事会自体が第 11 条に基づいた措置を目的として開催されているものであり、実施基準では対応できない状況であるというのは共通認識であるはず。また、通常の日程選定の過程においても各加盟校内で個人の都合の摺合せ(マイノリティの排除)が行われており、今回はそれを学連単位で行うに過ぎないという解釈も可能である。つまりところ緊急事態である本件はその根底に無理をはらんでおり、公正な方策決定に向けて最大限の努力をすることしか明言できない。いずれにしても再セレを実施するのであればの話である。再セレクションは決して“最も事務的に有効な方法”ではなく、むしろ煩雑さは増す方策である。
- ・再セレの代替案として提案されている方法は、上述のように公正性を確保できず、恣意性を排除できないため実施が困難か。ただしこの陳情は、「競技としての公正性」に対する「参加の可否に関する公正性」を重視したものであり、代替案が採用できないとしてもその主張は十分検討する必要がある。

## V 伴 広輝 (京都大学 3)

### 【陳情 i】

関西学連 OB による再セレクションレースは行うべきではない。

#### (理由)

今回のセレクションレースでもわかる通りスプリントのレースはフォレストのそれよりも注意を要する事柄が多く、仮に再レースが決定したとしてもセレクションにふさわしいトレインでふさわしいコースを様々な注意を十分に払ったうえ、短い準備期間で提供するのとは不可能である。また学連 OB に大きな負担を強いてしまうことが考えられ、加盟員全体が納得がいくようなクオリティとなる可能性は低く今回と同様の問題が起きる可能性のほうが高い。

#### (幹事長メモ)

- ・再セレは OB 諸氏による運営のみならず、他大会への相乗りも含めて総合的に検討する。最も無理のない対策案を採択するのは大前提であり、この期に及んで独自開催にこだわることはない。しかしどのような大会であってもリスクはつきものであることも忘れてはいけない。仮に他大会に相乗りして再セレを実施するとしても、今の段階から要請する以上決して余裕はない。
- ・OB 諸氏に依頼して再セレを開催するのであれば、競技に直接関係しない部分を極端に簡素化するなど、準備期間が短いことによる競技の質への影響を抑える工夫は必要である。

#### 【陳情 ii】

今回のセレクションレースの結果を用いて選考を行うべきである。具体的には問題の表記で失格処分となったものも含めた上で男子は 10→11 のタイムを除いたもの、女子は 9→10 のタイムを除いたものをレースの結果とし選考を行う。

#### (理由)

今回のセレクションで先行される男子の人数は 8 人であり、上位 8 番目である山本選手は件の表記を通過し失格処分を受けている。処分を受けていない中で次に速かった松本選手の間には 37 秒の大差がついており、走行距離の差を考えてもこの差を埋める事は出来ないため表記による影響はほとんどないと言える。次に、72 番コントロール付近まで迂回を余儀なくされた選手でボーダー付近にいる選手として稲岡選手が挙げられる。しかし稲岡選手は 10 の時点で山本選手と一分近い差をつけられており仮に 10→11 で大回りしてなかったとしても差を埋めることは難しく件の表記がセレクション結果に大きな影響を与えたとは断言できない。よってこのことも踏まえつつ他の希望選手も含めて推薦選考を行えばよい。女子も同様である。

以上の理由により今回のセレクションレースを用いて選考を行うのは妥当であると言える。

#### (幹事長メモ)

- ・包括的な公正性にこだわらず、セレクション結果に与える影響のみからタイムを検討した提案である。今回はセレクションとしての扱いを重視すべきであるから、視点としては大いに検討に値する。問題は、やはり上述の恣意性を排除できないという根本的問題である。そもそも一切の恣意性を認めないとなればこの会議自体ナンセンスであるが、タイムを直接比較する部分の判断のふれをどこまで許容できるかは個々人に強く依存するものであるから、厳密な決定のためには相当の討議が必要である。また、伴氏個人としては陳情 iii の補強としてこの意見を提出している可能性が高い。

#### 【陳情 iii】

最後に私は本セレクションで十分な結果を残せるように念入りな対策と準備及びピーキングを行ってきた。またインカレ本戦で最大の結果を残せるように本セレクションも考慮に入れたトレーニング計画を立てている。これらの努力が運営側の不手際で無為にされるのはとても納得が出来ない。また安易に再セレクションをしたからといって解決するような問題ではないと認識してほしい。最低でも何らかの形でセレクションの結果を生かすことを求める。

(幹事長メモ)

・佐野氏(京都女子大学3)の陳情とほぼ内容を同じくするものである。中期的視点に立った公正性という意味では\*\*\*氏(\*\*\* )とも根底に通ずる部分がある。ただしこの3名は、いわば”今回のセレでうまくいった人達”であるから、純粋な公正性に対する主張の面と利益誘導の面は分けて検討しなければならない。

## VI ××× (×××)

### 【陳情】

まず初めに、本主張は

- 一、スプリントセレの結果をそのまま代表選考に用いるべきではないか
- 二、仮に再度競技をすることになった場合、スプリントセレの結果が全く考慮されないというのは納得ができない

というものである。

学連からのメールには「本大会の結果を無条件で代表選考に用いることは不適切かつ不可能である」とあったが、この文言を「話し合いをする＝無条件ではない」と解釈した上で一、を主張させていただく。

(理由)

どちらの主張も根拠は同じであり、以下の通りである。

表記の誤りについて、件の通行禁止の門の×印が表記として正しくないと競技中に理解していたセレ対象者はどのくらいいるのか。これはいなかったと判断せざるを得ない。なぜなら当日調査依頼が出なかったからである。

後日再度受け付けられた本件に関する調査依頼は件の箇所を通行した者の失格は不当ではないかというものであるが、これは明らかに競技者に不利益が生じる問題であり、当日、ましてや競技中に事態に気づいていたなら即刻調査依頼を出すのが自然であろう。例え理解した上で調査依頼を当日ださなかった者がいたとしても、該当箇所の表記に問題があると理解している人が理解していない者より不利益な状況とは言えないであろう。

このことからまずは、あくまでセレ対象者は当日平等な条件の下競技をしたと言える主張する。

また、件の×印が渡可点表記 )( と紛らわしい、見間違えた、という主張の方がいたら同意できない、しかし表記の誤りという、その条件はみな同じであり、スプリント競技においては藪の隙間のように渡可点記号の2本の線の隙間よりも細かい読図が求められる場合があるのではないか。途中で通行できないと読み、そこからミスを重ねた人もいるであろうが、通行したかったところが通行できないと気づいたときの立て直しもまた求められる部分ではないのか。

表記の誤りはもちろん問題であるが、それによってセレクションに競技性や平等性の面で著しく問題があるとは思えない。

運営の公式発表では「意図的に見にくくする考えはない」という旨が強調されており、該当者は気分を悪くされたら申し訳ないが、同じ条件の下該当箇所を通行不可だと判断し走完了したセレ対象者がいることも含め、件の×印の部分を通り過ぎてしまった者は運営の想定した域に達せなかったことを少なから

ず考慮すべきではないか。

上記のとおり、不成立にはなったがセレ対象者の条件は同じだったこと、そのなかできちんと完走した者は決して少なくないことを強く主張する。そして、決して運営者や該当者に非があると言いたいわけではないと前置くが、スプリントセレをきちんと完走した者には一切の非がないことは明らかである。その、一切の非のない者たちがリスクのみを負うような対応をとるといえるのはいささか納得できない。

ここでいうリスクとは DISQ や怪我、コンディション等様々である。例えば、該当箇所と全く関係ない箇所で DISQ になった者にはチャンスが与えられ、通過したかとおもわれた者はセレクション落ちのリスクが少なからずある。DISQ は本人の問題であるが、日程は不可抗力な場合が多く、スプリントセレで通過していたのに再度セレクションをすとなったら参加すらできない、という者がでないとは言い切れない。毎年ある程度開催時期が決まっている場合とは違い、急遽再競技を開催となったら予定をあわせるのは比較的困難だろう。その反面、本来の日程では参加できなかった者が参加する場合もある。そもそも開催できる可能性のある日程がかなり限られている。

まとめると、

- ・不成立かどうかに関わらず、レースは平等であり代表選考に用いても問題ないと考えており、なかったことにされるのは納得できない

- ・上記に加え、再競技は平等性に欠け、日程的にも厳しく開催可能であるかどうか疑問であり、再協議は現実的でないと考え、賛成できない

の2点である。

加えて、他の主張や協議の結果再競技することとなった場合、無条件で開催を決定するのではなく、どうか慎重な議論を重ねた上で詳細を決定していただきたい。

**(幹事長メモ)**

- ・一見長いが特に目新しい内容はない。要は中長期的公正性と E 案の採用を主張するものである。

## 5. その他の参考資料

本資料に加え、以下の資料を参考資料として議論を進める。

[参考資料2]： お詫びとお知らせ(7/19)

[参考資料3]： 調査依頼への回答(7/27)

[参考資料4]： 公式成績表(8/1)

[参考資料5]： 関西学連スプリントセレ実施基準('16/11/19)

幹事会においては以下の資料も参照した。

[参考資料6]： 関西学連スプリントセレ推薦基準('16/4/28)

また、運営者から以下の資料の追加提出があった。

[参考資料7]： 速報記録(7/16,HTML 形式,2 ページ)

[参考資料8]： 速報ラップファイル(7/16,HTML 形式, 2 ページ)